



第 951 号 ミニかわら版

令和 7 年 8 月 15 日
(この資料は全部お読みいただいても60秒です)

ヤマダ総合公認会計士事務所
代表 山田良平

〒124-0012
東京都葛飾区立石 1-12-11 ヤマダビル
TEL:03-3694-6091
FAX:03-3691-6680

生成AI利用率、日本は26.7% 世界と比べて低水準

総務省が公表しました2025年版「情報通信白書」によりますと、日本国内における生成AI(人口知能)の個人利用率は26.7%に達しました。これは前年の9.1%から約3倍に増加しており、生成AIの一般利用が急速に広がっていることが明らかになっています。しかしながら、この割合は中国で81.2%、アメリカで68.8%、ドイツで59.2%となっていて、他国と比べると低い水準にとどまっています。

この調査は、全国の15歳以上の個人を対象に実施されたもので、生成AIの利用状況や意識について詳細に分析されています。利用率の上昇は、ChatGPTやGoogle Geminiなどの対話型AIの普及、画像生成や要約・翻訳といった実用的な機能の浸透が背景にあると考えられています。

生成AIサービス利用経験を年代別に見ますと年齢差が顕著で、20代の利用率が最も高く44.7%に達しており、次いで40代が29.6%、30代が23.8%、50代が19.9%、60代が15.5%となっています。若年層ほど生成AIの利用が進んでいる傾向が見られました。特に20代では、日常的な調べものや学習支援、SNS投稿の補助など、生活の中で生成AIを活用する場面が増えているとされています。

また、企業に生成AIの活用方針の策定状況を聞いたところ、「積極的に活用する」と「領域を限定して利用する」という回答が合わせて49.7%と、8割以上が利用に前向きだった中国やアメリカに比べて低い水準でした。

中でも中小企業では「積極的に活用する」と「領域を限定して利用する」という回答が合わせて34.3%と大企業より20ポイント以上低くなっています。

このように、日本国内でも生成AIの利用は着実に広がりを見せています。しかしながら、技術力や活用の進展といった面では、依然として世界のAI先進国に比べて遅れを取っていると指摘されており、今後の普及状況や、利用促進のための支援策に注目が集まっています。

* 詳細は以下の資料をご覧ください

「令和7年版情報通信白書(概要)【第I部 特集 AIの爆発的な進展の動向】(総務省)」2025年7月
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/summary/summary01.pdf>

